

【各地域の日程等状況の調査について】

各地域の部活動再開状況の関しては、3月・4月・5月の毎月末の3度に渡り、各地域幹事長と話し合いを進め現状調査を行ってきました。

JTA 公式トーナメントの自粛要請が発出される時期と同時に、それに伴う各地域学連の日程変更やその時点でのコート使用状況、各大学の部活動状況などを調査してきました。

【現時点での状況認識】

その中で、現時点で部活動の再開ができていない地域は多々あるものの、現在と同程度の状況が維持されれば、全日学連としては遅くとも秋学期(9月中旬)からの部活動が再開できる可能性が高いと認識している。

その中で、最短の大学でも2ヶ月の準備期間があれば全国大会の開催が可能であると考えている。

【大会の開催優先順位について】

全日学連としては団体戦、個人戦のどちらかが優先されるという考えはない。個人戦はインカレ(全学年が出場する)を優先させる方針で考えている。

王座に関しては、各地域のリーグ戦の実施が大前提となるが、各地域選抜大会を経て王座出場校を決める地域リーグには長期の時間がかかると考えている。(特に、9月以降の場合、授業の関係もあり週末のみの開催の可能性が高い)

また団体戦は応援も含め部員が密着状態で行われるため開催のハードルが高い。

王座に関しては男女各10校ずつのみの参加となり、最終的に出場対象となる大学が非常に少ない。もし団体戦の開催にこだわり、個人戦を後回しに考えた場合、コート確保や大会準備の関係上、今年度は1大会も大会の開催を行えない可能性がある。

その一方、個人戦の開催は関係者の制限等を行いやすく、団体戦に比べ移動人数も少ない為、開催のハードルが比較的低い。

以上のことから、全日学連としては4年生が出場可能な全国大会を高い可能性で残す為、インカレを11月に開催することを予定した。

王座については、今後、各地域のリーグ戦実施状況を見て、開催時期・開催可否・開催規模を判断する事として現在の予定を維持し、8月頃の状況で判断する事としたい。各地域のリーグ戦の進行状況によっては、団体戦は各地域のリーグ戦のみ(全国王座は中止)という判断も止むを得ない、と考えている。

【インカレの選抜方法について】

従前からインカレ選手の選出方法は各地域からの推薦という形で決まっている為、その方法については各地域に任せる形となっている。

各地域大会の実施状況により、「選抜大会」「ランキングでの選抜」「ランキング+選抜試合での選考」等各地域で状況に応じて選手を決定する方式でお願いしたい。全日としては11月の開催日に近い期日での選手決定にも対応できるよう、準備を工夫したいと考えている。

【大会実施のコロナ対策、選手の健康対策】

JTAの指導も得ながら現在、「大会実施要領」を作成しており、早い機会に各地域と共有したい。